





阿東(野坂峠) 津和野 小部(津市) 山口 小部 馬頭観音と地蔵

イラストでたどる石州街道 ⑭ 馬頭観音と地蔵

大峠を越えて300mほど下ると左手に河内社という水神がある。その詳しい由来は不明だが、近くから水が湧き出ており、おそらく峠から始まる水脈を祀っているのだろう。そこからさらに500mほど下って、道がカーブする辺りの左手に馬頭観音がある。

馬頭観音は観世音菩薩の化身に「馬そのもの」ないしは「馬の文字」が掘り込まれているのが特徴である。この菩薩像は、通行上危険な場所や農耕馬が死んだ場所の近くに建てられたと伝わるから、交通安全と動物愛護の意味が込められていると言って良いだろう。萩往還の小鯖地区に数か所、石州街道の杖立集落の上部にも立派な馬頭観音がある。

文イラスト 古谷眞之助



語り部となって研修を受けるまで、馬頭観音というものを知らなかった。本文にも書いているように、「馬頭観音は、本来仏教でいう六観音の一つで、文字通り観音像の頭上に『馬そのもの』ないしは『馬の文字』が掘り込まれているのが特徴である。この観音様は、交通安全や動物愛護的な要素も持っているらしい。そのため通行上危険な場所や農耕馬が死んだ近くにこの観音像が建てられたと言われている。萩往還の小鯖地区や石州街道の杖立集落の上部にも立派な馬頭観音がある」ということのようなのだ。小写真左が杖立集落にある馬頭観音で、右は萩往還の小鯖地区、鳴滝入口にあるそれで、いずれも観音様の頭の上に馬が乗っかかるように掘り込まれている。また「馬」の文字が掘り込まれたものは下小鯖の境地区にある。萩往還沿いの大内地区にはなく、小鯖地区に入ると馬頭観音がいくつか見られる為、かつてはこんな推測をしていた。つまり、「大内地区は仁保川の運んできた洪積台地であり、稲作に適した泥濘地である。ここを耕すには馬ではなく地力のある牛が適している。一方、小鯖地区に入ると両側の花崗岩の山から流れ出た砂地が主流で、耕しやすい。そこで牛ほど馬力のない(?)馬が用いられ、それに伴って馬頭観音が多くみられる」という一応もってもらいたい推測である。数年前に山口市文化財保護課の依頼を受けて、所属する大内史談会が大内地区の文化財調査を行い、その際に会員20名で地区内を歩き回って文化財らしきものを全て抽出した。私は自宅近辺の御堀と氷上エリアを担当したのだが、我が家から歩いて200m足らずの場所に、何と馬頭観音を発見したのである(小写真右)。その為、私の推測はもの見事に否定されてしまった！まさに素人の浅はかさというべきか。(2023.6.10 記)

